

戸田康之さん『足音』（11月29日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。
今日は、自分の足音の話をしたと思います。

私は今、ろう学校の教員をしています。ろう学校の教員はほとんどが聴者です。聴者の先生と一緒に仕事をしています。私のいる幼稚部も聴者の先生が多いです。

聴の先生と仕事のことでも話をしたい時、先生のところまで行って声をかけなければいけません。そんな時、例えば教室に聴の先生がいて、私がある教室まで行き先生を呼ぼうと思うのですが、教室に入って私が呼ぶより先に、その先生がもうこちらを見ていて、部屋に入ったとたんに目が合うんです。不思議に思いながらも、ちょうど目が合ったのでそのまま仕事の話を始めました。こちらから呼ばなくても向こうが待ち構えていたんです。

他にも、廊下を歩いていた時に、聴の先生が急に目の前に来て私を呼び止めたんです。それも私が来ることを分かっていたような感じなんです。ふつう出会い頭なら、見て初めて誰かということが分かるものですよ。そうじゃないんです。もう私めがけて来てるんです。どうして私がここに来ることが分かったのか、聴の先生に何人か聞いてみました。そういう不思議な経験が、一度ではなく何度もあったので聞いたんです。

すると先生たちは、私の足音に特徴があると言うんです。私はただ何の気なしに歩いているのですが、その足音が特徴的だから、先生たちは私が来るということが分かって待っていたということだったんです。また、私の足音を聞いて「あ、戸田先生がいる！」と気づいて向かって来ていたんですね。

私は、歩くときに足音がするなんて全く分かりませんでした。ろう者ですから自分の足音がどんなものかは分かりませんが、音がしてるんですね。

自分の足音を直すなんてことは、もうできません。しみついてしまった歩き方ですから、足音をさせないように歩くななんてできないですね。でも、わざわざ呼びかける必要もなく、歩いていれば向こうから来てくれるので手間が省けますから、このままでいいかなと思っています。